

私の目標を象徴するネックレス

建築家 松岡恭子さん(39)



①ネックレスをした松岡恭子さん②「アトリエモミ」のネックレス

わたしの

逸品

十二個の石・オニキスをシルバーのパイプがつなぐシンプルなネックレス。手に入れたのはパリにある一層ほどの宝石店「アトリエモミ」でした。店を営むデザイナー、櫻井紅絹さんは、若くして単身パリに飛び込んだ

同年代の女性。私も二十代でニューヨークに留学し、ヒリヒリする大都会で孤独と戦いながら道を切り開いてきたので、彼女について耳にしたときから、一度訪ねようと思っていました。

人に支持されており、どの文化にも共通する本質的な精神が流れていると思いました。私の職業は、法律や金銭などの事情に左右されることなく、普段から、そうしたことに動じない強さが欲しいと感じています。日本から遠く離れたパリで、異文化にさらされても、揺るがない作風こそ、私の目指すものです。

「だ」と思いますが、建築という職場は、突如現場に急行して、足場の悪く中に立たなければならぬこともあり、普段の服装はシンプル。アクセサリーもあまり身に付けません。

ネックレスを見た瞬間、目に飛び込んできたのは、装飾がなく、余分なものこそ落とした紅絹さんの精神性。大げさでなく、そこにはわびさびの心がありました。彼女の作品は地元の著名人の内面を表すそのもの

からです。このネックレスが登場するのは自分を主張したい公の場だけ。いさぎよく、本質的。このネックレスは私が目指す方向の象徴のようなものです。

ファッションは「その人の内面を表すそのもの」(福岡市中央区荒戸)